



株式会社ベネッセコーポレーション

投資効率向上とリソース配分の最適化へ 全ITプロジェクトの情報を一元管理 CA Clarityで年1000件超の案件情報を統合管理

■要件

事業部門とともにIT部門で企画・実行するシステム開発プロジェクトが、年間1000件を超えている。投資効率向上、工数管理およびリソース配分の最適化に向け、全プロジェクトを一元管理する仕組みを求めた。

■ソリューション

プロジェクト&ポートフォリオマネジメント製品「CA Clarity」を採用した完成度の高いプロジェクト統合管理システムを構築する。パッケージを使うことによって、短工期での導入・稼働を目指した。

■成果

新システムによって、全プロジェクトの工数とメンバーの業務負荷が迅速に把握できるようになった。今後は、データを蓄積していき、プロジェクトの全体最適によって、投資効率を一層向上させる。

年1000件超あるITプロジェクトを一元管理する仕組みの導入を検討

教育・語学・生活・介護という四つの事業領域を軸に持続的な成長を続けるベネッセコーポレーション。教育事業の「進研ゼミ」、生活事業の「たまごクラブ」「ひよこクラブ」といった多彩な商品・サービスで幅広い顧客のニーズに応えている。

各事業部門ではITを活用した業務自動化や、インターネットによる教育サービス、EC(電子商取引)サイトの構築・運用などを手掛けており、新商品・サービス提供の際、システム開発が不可欠になっている。

同社でそのシステム開発の推進役となるのがIT戦略部である。各事業部門の要望に基づき、システム構築を指揮。幅広い事業にきめ細かく対応しているため、企画または実行する案件は年1000件超に上る。

IT戦略部が、新しいプロジェクト統合管理の仕組みを検討し始めたのは2008年10月のことだという。

IT戦略部部長の樋口康弘氏は「全プロジェクト情報を一元管理し、工

数管理を精緻化するとともに、リアルタイムで確認可能にし、リソース配分の最適化を一層強化する必要がありました」と振り返る。

従来は、各プロジェクトの担当者が進捗状況を表計算ソフトのシートに記入。それを手作業でとりまとめて、週次または月次でレポートにしていた。状況把握に時間がかかるほか、入力内容が統一されていないなどの課題があった。

IT戦略部ITマネジメント課の阿部孝氏は「部内の各課を代表する8人のチームで課題を洗い出すとともに、あるべきプロジェクト管理の姿やシステムに必要な機能などを詰めていきました」と語る。

検討会では、新システムで実現すべき要件として、ROI(投下資本利益率)の算出といった「IT投資の見える化」、リスクを含めた「プロジェクト管理の見える化」、現場に役立つ「開発生産性の見える化」の三つがまとまった。

併せて、統合管理するプロジェクト情報は、CIO・部長・課長には投

資効果の情報を、リーダーには進捗・工数管理の情報を、メンバーには開発生産性の情報を——といったように、役割に応じた適切な範囲の情報が扱える仕組みを求めた。

経験豊富で要件に適合する製品を提案したNSSOLをパートナーに選択

こうした要件をもとにRFP(提案依頼書)を作成。3社から提案を募った結果、ベネッセコーポレーションが選択したのが、新日鉄ソリューションズの提案したプロジェクト&ポートフォリオマネジメントソリューション「CA Clarity」による統合管理システムだ。

阿部氏は選定理由を三つ挙げる。「まず、新日鉄ソリューションズは自社でCA Clarityを実際に導入しており、製品ノウハウを十分に蓄積しているという安心感がありました。また、工期が非常に短いため、導入の各工程と作業の内容が具体的であったこともポイントでした。最後に、RFPの三つの見える化実現に対して、きちんと応えた提案を行った点



株式会社ベネッセコーポレーション IT戦略部 部長 樋口 康弘氏



株式会社ベネッセコーポレーション IT戦略部 ITマネジメント課 阿部 孝氏

を評価しました」。

新システムの構築プロジェクトは2009年2月に始まる。6月の本格稼働を目指し急ピッチで構築は進んだ。

製品の豊富な機能を生かし、そのまま使う方針であったため、アドオンのプログラム開発を抑制することができたが、製品が提供するデータモデルの使い方については非常に多くのパターンを検討した。

併せて、一元管理する情報を誰に何をどう見せるかなどの権限制御に関するルールを決めた。同じ人間でも各プロジェクトでの役割に応じて操作や情報更新の範囲を変えらるという業務実態に合った設定を行った。

新日鉄ソリューションズは、この複雑な要件定義を着実にこなし、2カ月後の4月にシステムはパイロット稼働に入る。

阿部氏は「システムが収集する情報は細か過ぎても実用的ではありませんし、現実のプロジェクトは枝分かれや合流があるなど、流れが複雑です。しかし、とすれば発散しがちな要件を新日鉄ソリューションズは適切にまとめました」と語る。

ベネッセコーポレーション側のや

■コアテクノロジー CA Clarity、XML

■システム概要

- サーバー：APおよびWebサーバー×1(Windows)、DBサーバー×1(Windows)
- ミドルウェア：Oracle Database

るべきことを明確にし、役割分担が適切だったことも短工期での構築を実現したポイントだったという。「ここはわれわれが考えるところ、ここはClarityのスペシャリストが考えるところという分担が明確になっており、違和感なくプロジェクトが進みました」(阿部氏)。

細かい変更要求に対応しながら 予定通り5カ月で本格稼働を実現

新日鉄ソリューションズは多数の変更・改善要望にも対応した。

樋口氏は「このシステムは積極的に使って初めて効果が出ます。そこでパイロット稼働中は、使い勝手に関する非常に多くの要望を出しまし

たが、期待以上に対応していただきました」と語る。

新システムは6月から本格稼働に入り、IT戦略部のメンバーが全案件の情報をシステムに入力している。成果も出始めた。例えば、工数のような定量情報が容易に集計可能になり、メンバーが担当プロジェクトの工数管理をより強く意識するようになった。また、統合管理によって、事業部別・システム別のリソース配分が見える化され、課題を確認しやすくなったという。

今後は、蓄積したデータを活用して、IT投資やIT戦略部のリソースを戦略的かつタイムリーに再配分し、全体最適を実現する計画である。

■ベネッセコーポレーションが導入したITプロジェクト統合管理システムで実現する業務

